プレスリリース

《発表記者会：東北電力記者会、宮城県政記者会》
平成３０年７月１９日

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

青森労働局
岩手労働局
秋田労働局
宮城労働局
山形労働局
福島労働局

国土交通省

東北運輸局

荷主企業と運送事業者の課題を共有、トラックドライバーの１日の拘束時間が最大で４時間程度短縮

～トラックドライバーの長時間労働改善パイロット事業～

トラック運送事業においては、働いている方の総労働時間がとりわけ長いという実態が見受けられるところであり、この長時間労働の抑制に向けた環境整備を進めるため、平成２７年度に全ての都道府県において、労働局、運輸局、トラック協会が共同で**「トラック輸送における取引環境・労働時間改善地方協議会」**（以下「協議会」という。）を立ち上げております。平成２８～２９年度の２年間において、パイロット事業（実証実験）を行い、長時間労働などの問題点の把握、改善方法等について検討し、平成３０年度には好事例を集めてガイドラインの策定等を行い、その普及と定着を図ることを目的に取組を行っております。

東北６県の協議会においても、平成２９年度に発着荷主と運送事業者を構成員（「対象集団」）とするパイロット事業（実証実験）を実施しましたので、その結果の概要をお知らせします。

平成２９年度パイロット事業概要

東北６県のパイロット事業（青森県、秋田県）

	荷種	取り組み内容・効果・課題
青森	農産物	・朝積み時間の前倒し、配送先別の荷積みの区分け・整理。 ・１運行の荷受先を削減。 その結果、荷積み時間の削減により２時間拘束時間が短縮。 また、次年度以降も意見交換会を行い、課題を共有。
秋田	農産物	・出荷締切時間の徹底。出荷荷造りの統一。運送人による集荷箇所分担。 ・パレット輸送。着荷側の荷受人の配置。 その結果、集荷の拘束時間で２～３時間短縮。着荷の拘束時間は１時間半短縮。 また、発荷主及び生産者の出荷の改善・統一により、大きく取引環境改善が期待される。

東北６県のパイロット事業（宮城県、岩手県、山形県、福島県）

	荷種	取り組み内容・効果・課題
宮城	食料品	・パレット輸送。積込み時間の厳守。荷降ろし時間の前倒し。 ・帰り荷の早めの発注依頼の徹底。 その結果、パレット輸送の荷積み及び荷降ろし時間は１時間短縮。 積込み時間の厳守で手待ち時間で最大４時間短縮。 なお、課題としてパレットの紛失、積載効率が低下。
岩手	食料品	・営業所出発時間を後倒しし、荷役前の荷主付近での待機時間縮減。 その結果、習慣化していた休憩時間で約２時間程度拘束時間短縮。 ・着拠点の集約化により、運転時間を縮減。（シミュレーション検証） その結果、１時間程度の拘束時間削減が見込まれる。 なお、増車や配送距離延長に伴う物流コスト増加の課題は残るが、荷主は労働環境改善のため、機能の集約を進めることとしている。
山形	食料品	・荷積み箇所の集約（シミュレーション検証） その結果、１箇所積みの場合で拘束時間７０分削減が見込まれる。 なお、荷主はこれまでも出荷箇所の集約、倉庫等施設の整備など、出荷の見直しを取り組んでいる。
福島①	ゴム製品	・倉庫までの横持ち輸送にフォークリフト荷役専用のパレットを導入し、すべて手荷役の作業から荷役作業時間の短縮。 その結果、２時間３０分程度の拘束時間短縮と作業量の削減も見込まれる。 課題として、積載効率４４％低下により輸送コストの増加であるため、架台の開発等が必要。
福島②	食料品	・工場への適切なトラック入場コントロール、事前荷揃い、リフト作業の最適化。 その結果、荷待ち及び荷役作業時間の削減により３０分の拘束時間削減。 課題としては、着荷主も含めた拘束時間等の共有。

青森県、秋田県、宮城県、福島県の取組詳細については別紙をご覧ください。

なお、平成３０年度は東北２県（青森、秋田）において実証実験事業を実施することとしております。

《問い合わせ先》
東北運輸局　自動車交通部貨物課　今泉、渡辺
TEL：０２２－７９１－７５３１

青森県協議会の取組み

実施集団

➢ 発荷主(生産者団体) 、運送事業者(実運送) 、着荷主(青果卸売業)、 荷種：野菜

課　題

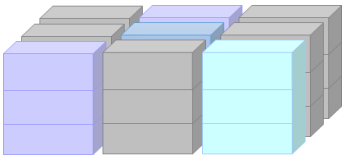
○荷積みが複数カ所を回っての集荷が多く、集荷荷物の区分けや整理ができていないため荷役に時間を要している。
○着市場への運行は、複数の荷受先に降ろしているため、その都度、手待ちや荷役に時間を要している。

実証実験

○ 運行開始日の朝積みの作業開始時間の前倒し、集荷荷物の配送先ごとに荷積みの区分け・整理をすることにより荷役時間等を短縮。
○ １運行で２カ所程度の荷受先に削減し、手待ちや荷役時間を短縮。

現状　朝８時～荷積み開始

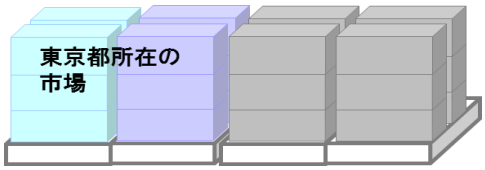
現状　配送先ごとの仕分けができていない



荷積み前の状態

朝６～７時に荷積み開始

配送先ごとに積み荷を仕分けして「配送先を明確にする」



仕分け、荷受先削減	実施前
拘束時間（繁忙期）	18時間00分

実施後	短縮効果
15時間42分	2時間18分

拘束時間（推定） → **約2時間以上短縮**

秋田県協議会の取組み

実施集団

➢ 発荷主（生産者団体）、運送事業者３社(実運送) 、着荷主３社(青果、花き卸売業)、 荷種：青果、花き

課　題

○集荷場所が遠距離で箇所数が多く、出荷の積みつけ（出荷準備）が統一されていないため、時間を要している。生産者の出荷締め切り時間が守られていない等、荷積みから集荷に要する時間は全体で６時間弱となっている。

実証実験

○実証：生産者出荷締切り時間の徹底。荷造り（出荷準備）の統一。広範囲の多い集荷箇所を運送人が分担集荷。
○実証：パレット輸送、着荷側の荷受人の配置による拘束時間の短縮。

- *拘束時間は集荷箇所と配送先の工夫等により、1時間半～3時間短縮。*
- *パレット輸送、着荷側の荷受人配置により、荷降ろし1時間短縮。*

運送先	労働時間等	実証前
秋田県北～築地市場（青果）	1日の拘束時間平均	16:50
	運転時間平均	11:05
秋田県南～横浜市場（青果）	1日の拘束時間平均	16:38
	荷積み～運行開始時間	5:43
秋田県央～大田市場等（花き）	1日の拘束時間平均	16:52
	着荷降ろし時間	2:10

主な実証実験

- 出荷締切り時間徹底
- 荷造り（出荷準備）統一
- 運送人集荷分担
- パレット輸送
- 着荷側の荷受人の配置

実証結果

実証後	効果
13:55	△2:55
9:10	△1:55
14:30	△2:08
2:33	△3:10
15:20	△1:32
1:00	△1:10

宮城県協議会の取組み

実施集団

➢ 発荷主（食品加工製造）、 元請運送事業者、 実運送事業者、 着荷主、 荷種：食料品

課　題

○手荷役のため、荷積み・荷降ろしに時間を要しており、運転手の肉体的負担となっている。荷積み順番待ち等で待機時間が発生している。
○荷降ろしバース数が限られているため荷降ろし待ちが発生し、また、帰り荷の発注依頼が遅いため手待ち時間となっている。

実証実験

○パレット輸送による荷役時間短縮と運転手の負担軽減。集荷時間の事前連絡と積込み時間の厳守。
○着荷主の空きバースの利用と荷降ろし時間の前倒し。帰り荷の早めの発注依頼による手待ち時間の短縮。

- *帰り荷の発注依頼が早まったことで、荷積み手待ち時間が短縮。*
- *積み込み時間の厳守を意識したことで、行き荷積み手待ち時間が短縮。*
- *パレット輸送による荷役の効率化により行き荷の荷積み時間、荷降ろし時間が短縮。*

帰り荷手待ち最大	行き荷積手待ち最大	行き荷積み平均	行き荷降ろし平均
4:50	6:50	2:18	1:51
↓	↓	↓	↓
1:30	2:10	1:00	0:40
△3時間20分	△4時間40分	△1時間18分	△1時間11分

手待ち時間は最大で３～４時間短縮

荷役は平均１時間程度短縮

福島県協議会の取組み

実施集団（第２事業）

➢ 発荷主(飲料製造) 、 元請運送事業者、 実運送事業者、 着荷主、 荷種：食料品

課　題

○発荷でのトラック入場時間のルールが曖昧のため、バース接車までに長時間の待機時間が発生。多品種少量品のピッキング事前準備が非効率。リフトマンの時間帯別必要作業量が最適配置となっていない。

実証実験

○納品距離、納品時間から逆算した車両別出荷バッチの設定により入場をコントロール。少量品は事前に荷揃い作業し、一部検品を廃止など、ピッキング作業の効率化。
○ リフトマンの作業を「見える化」することで、最適配置と作業計画を立案し、生産性を向上。

＜ 改 善 結 果 ＞ 発地(発荷主側)での待ち時間の削減

取組前	時間
場内滞留時間	平均95分
（内訳）待機時間	平均52分
（内訳）積込時間	平均43分

入場バッチによる車両コントロール
ピッキング等作業の効率

取組後	短縮効果
平均65分	*△30分*
平均28分	*△24分*
平均37分	*△6分*

○管理者はスマートフォンで、リフトマンの作業状況をリアルタイムで把握可能。
○管理者はトランシーバーを活用して、手の空いたリフトマンを別の場所に移動するなど応援作業の指示。

作業員の生産性向上